

一人ひとりの行動で大きな変化が生まれることを実感

西川 純一 和泉市立北松尾小学校
(2005年に交通環境学習を実施)

「ふだんの暮らしの中でCO₂をへらそう」という取り組みを、6年の理科の授業でおこないました。6年の理科では、「ものが燃えるとき」「ヒトや動物の体」「生物とかんきょう」「水溶液の性質」と、さまざまな単元でCO₂が登場します。ものが燃えたり、生き物が呼吸したりするときに出て、炭酸水にも溶けていたCO₂が、今問題になっている地球温暖化に大きな影響があるんだね、というところから学習を進めていきました。

4時間だけの学習でしたが、生活の中でのさまざまな活動が、CO₂を増やす原因になっているんだということを子どもたちは実感できたようです。そして、自分たちの行動がCO₂の削減に少しでもつながるんだという意識も持てたとと思います。

また、個人の記録だけでなく学級や学年の合計の数字を示すことで、一人一人の行動ではささやかな変化しかなくても、より多くの力を合わせれば大きな変化が生まれるという意識を持った子どもたちがたくさんいました。

子どもたちにとって、自分たちの行動を正確に記録することは難しいようでしたし、原単位表を元に計算することにも苦労していましたが、行動の成果が数値化されるということで、より主体的に取り組めた子が多かったように思います。

